1 高橋家住宅

高橋家は、代々理右衛門を名乗る黒石藩御用達の商家で、主に米穀を扱ったことから屋号を「米屋」といいます。昭和48年２月23日重要文化財に指定されています。津軽地方の典型的な大型商家の造りで建築年代は、材木の見積書から宝暦13年（1763）頃と推定されます。

2 金平成園（澤成園）

別名「澤成園」で知られており、大石武学流または武学流と称されている作庭流派の様式を持つ庭園です（現在非公開）。明治15年（1882）に加藤宇兵衛に招かれた高橋亨山が、金平成園の作庭に着手しましたが、亨山は完成を待たずに死去したため小幡亭樹を中心とした弟子が後を継ぎ、明治35年（1902）に完成しました。

庭園の名称は、「万民に金が行きわたり、平和な世の中になるように」ということから「金平成園」と名づけられました。しかし、加藤家の家業でもあった酒造業の初代屋号である「澤屋成之助（さわやなりのすけ）」の名前から「澤成園」とも呼ばれ、こちらの名称が広く使われるようになりました。平成18年１月26日史跡名勝天然記念物に指定されました。

3 九戸家住宅

文化年間（1804～18）に建てられた建物です。この場所は、現在の甲大工町のほぼ中央にあたり、江戸時代は、陣屋の中にある侍町でした。そして、この住宅は、黒石津軽家14代津軽承捷の生家としても知られています。

建物の造りや部屋の配置から上級武士の住宅である可能性が高く、藩政時代の武家屋敷を代表する建造物であることから、平成18年10月18日に登録有形文化財に指定されました。

4 こみせ通り

明暦２年（1656）、黒石初代領主津軽信英（つがるのぶふさ）が黒石津軽家を創立した際に、陣屋を造り新しい町割を行いました。このとき信英は商人町に主屋の前面にひさしを張り出し日常の往来に供される「こみせ」を作らせたといわれています。

藩政時代のたたずまいを残し、伝統的な形態を保つ「こみせ」が連続する町並みは、現在では非常に貴重なものとなっています。

※黒石市は平成17年１月25日、中町を主体とした約3.1ヘクタールの範囲を黒石市中町伝統的建造物群保存地区に指定。同年７月22日には、文部科学大臣から「伝統的建造物群が全体として意匠的に優秀なもの」として重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

5 鳴海醸造店

【鳴海家住宅】

鳴海家は、創業約190年を誇る造り酒屋で、屋号を「稲村屋」といいます。文化３年（1806年）の創業ですが、建物はそれ以前からのもので、築200年以上。大きな改築、改修もされず今日に至っています。

約1570坪の広大な敷地は、中町と浦町にまたがり、母屋の奥には、酒造店としての作業場や蔵などが配されて、伝統的な店構えをみせています。

【鳴海氏庭園】

鳴海氏庭園は、幕末から明治大正と津軽地方を風靡した大石武学流の作庭を様式を持つ庭園です。明治20年（1887）頃に小幡亭樹が作庭を開始し、後に代池田亭月が完成したと伝えられています。

庭園の北西部には、門があり、こみせに面しています。門から池に西面する隠居部屋の沓脱石まで飛石が配されています。また、池の北西側には明治43年（1910）に建立された三代目鳴海文四郎の銅像が建てられています。

6 黒石神社

黒石藩祖といわれている初代領主・津軽信英は、明暦２年(1656)、弘前藩から5千石の分知を受け「黒石津軽家」を創立したほか、「黒石領」を成立させ、後年「黒石藩」の基礎を作りました。

信英は、寛文２年(1662)９月に43年の生涯を閉じましたが、遺言により黒石陣屋の東南の隅に廟を建立して埋葬。以来、この地は御廟とよばれたほか、明治12年(1879)には、信英を祭る黒石神社が建立されました。

【金梨子地牡丹紋散蒔絵衛府太刀拵】

黒石神社にある御神刀。黒石第11代藩主津軽承叙が明治時代になり、帯刀が許されなくなったため藩祖津軽信英を祀る黒石神社に奉納しました。昭和49年10月14日に県重宝に指定されています。

【石燈籠】

初代黒石領主・津軽信英公の墓所には２対の石灯ろうが設置されています。これらの灯ろうは、２代領主・信敏が、延宝２年（1674）、信英の13回忌に建立したものと、宝暦11年（1761）に５代領主・著高が、信英100回忌に奉納したものです。

7 妙教寺

【妙経寺のカヤの木】

各地を巡回した修験者がカヤの木の苗木を植えたものと考えられ、樹齢約700年、樹の高さ19.5m、幹の周り6.55mあります。元来、宮城県を北限とし、北方では育たないといわれてきました。しかし、樹勢は腐朽もなく順調に生育しています。昭63年10月25日に県天然記念物に指定されています。

【妙経寺の大賀蓮】

日蓮宗法輪山妙経寺（最上知良住職）の境内に、八甲田連峰を借景したと伝えられる名園「揚光園」と呼ばれる庭園があります。園中央の池にある蓮は世界最古の古代蓮といわれ、発掘・育成した大賀一郎博士の名前から、種子の名称を「大賀蓮」と命名されました。

8 黒石市消防団第三分団第三消防部屯所

大正13年（1924）に建てられた町屋に洋風デザインを取り入れた擬洋風建築の消防屯所です。現在もその機能を果たしている建物です。昭和３年に正面デザインが変更されましたが、建築当初の様相がよく保存されています。第三消防部屯所は造形的にも優れ、保存状態も良好で、平成15年７月14日に県重宝に指定されています。

9 感随寺

能登国鳳至郡穴水村の弘誓寺から移住した釈休古が、正保４年（1647）に建立し、本山から山号・寺号を得たという寺伝をもっている。時鐘は、4代弘前藩主津軽信政が同寺に立ち寄り領内勧化を許可したことから、天保2年（1682）に鋳造された。現在の鐘楼はそのいわれを刻んで平成17年に再興されたものである。

【感随寺のサルスベリ】

サルスベリとしては県内でも珍しい大木で、平成12年に市の文化財（天然記念物）に指定されました。

花を付けるのは、例年８月中旬で、赤みがかったきれいな牡丹色の花を咲かせます。そして、その年の気候によって花の数が増減することから、同寺では古くから「豊凶を占う木」として、檀家や周辺住民など親しまれています。

１０ 秋田雨雀記念館

秋田雨雀は、詩人、劇作家、社会運動家として、数々の功績を残しています（黒石市名誉市民第１号）。

御幸公園隣の南地方教育会館内には、「秋田雨雀記念館（山形敏英館長）」が併設され、雨雀の愛用品や原稿などのほか、黒石出身の文学者の遺品なども合わせて展示されています。また市内の随所に雨雀の歌碑も建立されていますので、雨雀を偲びながら、郷土が生んだ偉大な文学者の軌跡に触れてみてはいかがでしょうか。

11 私設蔵資料館

中町こみせ通りにある、「黒石ゆかりの作曲家」私設資料館です。黒石にゆかりがあり、全国的にも有名な５人の作曲家、上原げんと・賢六・隆治の３兄弟をはじめ、山田栄一・明本京静の貴重な資料等をズラリと展示する。

12 横町かぐじ広場

平成９年４月にオープンしたもので、商店街の裏地（かぐじ）を利用して作られました。中町こみせ通りとも隣接し、市民の憩い・待ち合わせの場所として利用されています。

１３ 御幸公園（黒石陣屋跡、蝦夷縦）

明治33年、旧黒石藩主陣屋の馬場跡を整備し、「黒石公園」として開園しました。その後、大正4年に陸軍特別大演習が行われた際、大正天皇が訪問されたのをきっかけに「御幸公園」と命名。運動会や盆踊り、消防演習などが行われ、広く市民に利用されています。

１４ 黒石市役所

【明暦の検地帳】

今でいう土地台帳で、黒石領内の町内名をはじめ、作人名、耕作面積、作物名などが克明に記録されており、津軽信英が分知した当時の歴史的事実を知ることができる貴重な資料です。津軽領内最古の検地帳で、平成12年４月19日に県重宝に指定されています。

◇黒石ねぶた

『黒石ねぶた』には、人形ねぶたと扇ねぶたの両方があり、とくに、黒石市の人形ねぶたには、５段からなる高覧上に人形の本体を載せ、さらに見送り絵が付いているという特色があります。起源は不明ですが、天明６年（1786）以前に運行していたことがわかっています。平成５年４月16日に県無形民俗文化財に指定されています。

◇黒石よされ

【元　踊】

徳島の阿波踊り、岐阜の郡上八幡踊りと並び「日本三大流し踊り」と称されていますが、このよされ踊りの基礎となっているのは、『元踊（もとおどり）』といわれる古式の踊りです。

『黒石よされ』の起源は古く、約500年前から行われていた盆踊りで、男女の恋の掛け合い唄であったといわれています。また、この盆踊りが盛んになったのは、天明年間（1781～1788）に家老の境形右衛門が、城下町に人を集める商業政策として始めたともいわれています。明治30年以降、『黒石よされ』は絶えましたが、戦後になってから、黒石の商工会が町発展のため、『黒石よされ』を復活させました。さらに昭和35年以降、黒石商工会議所と黒石観光協会が、観光行事の一つとして、誰でも踊れるような現在の振り付けをして、今日に至っています。

【流し踊り】

黒石よされが、廻り踊り・組み踊り・流し踊りの３部門で構成されるようになったのは、昭和33年のことです。“元踊り”から誰でも踊れる廻り踊り用の振り付けが考案され普及しました。その後同35年には、再び手が加えられ、市内を大々的に行進する祭りとして新たな「流し踊り」が誕生し、まつりの名称も昭和38年に「黒石よされ祭り」に変更され53年からは「黒石よされ」に改称し、現在に至っています。

◇黒石名物　旧正マッコ市

日頃の感謝と黒石商人の心意気を、「マッコ（景品）」に込めて、毎年２月の第１日曜日に開かれます。藩政時代から続く行事で、現在でもたくさんの人が集まり、「黒石名物」として広く知られています。